

エルサレム会議

シリーズ～福音となったイエス～

2026・5・31

第一次宣教旅行の成功

- ユダヤ人の会堂を拠点に宣教
 - 「イコニオンでも同じように、パウロとバルナバはユダヤ人の会堂に入って話をしたが、その結果、大勢のユダヤ人やギリシア人が信仰に入った。」14:1
- ユダヤ人たちの反対 > 異邦人の入信
 - 「ところが、ユダヤ人は、…パウロとバルナバを迫害させ、その地方から二人を追い出した。」13:50
- アンティオキアでの報告
 - 「到着するとすぐ教会の人々を集めて、神が自分たちと共にいて行われたすべてのことと、異邦人に信仰の門を開いてくださったことを報告した。14:27」

律法問題のはじまり

- 律法を守らなければ救われないと教える人々
 - 「ある人々がユダヤから下って来て、『**モーセの慣習に従って割礼を受けなければ、あなたがたは救われない**』と兄弟たちに教えていた。」15:1
- パウロらが反対する
 - 「それで、パウロやバルナバと那些人たちとの間に、激しい意見の対立と論争が生じた。」15:2
- エルサレムのリーダーたちと協議することに
 - 「この件について使徒や長老たちと協議するために、パウロとバルナバ、そのほか数名の者がエルサレムへ上ることに決まった。」15:2

エルサレム到着

•道中で報告

- 「さて、一行は教会の人々から送り出されて、フェニキアとサマリア地方を通り、道すがら、兄弟たちに異邦人が改宗した次第を詳しく伝え、皆を大いに喜ばせた。」15:3

•エルサレム歓迎される

- 「エルサレムに到着すると、彼らは教会の人々、使徒たち、長老たちに歓迎され、神が自分たちと共にいて行われたことを、ことごとく報告した。」15:4
- パウロが救われてすぐにエルサレムに来た時には警戒されてすぐに受け入れてもらえなかった

エルサレム会議

• 律法遵守派

- 「ところが、ファリサイ派から信者になった人が数名立って、『異邦人にも割礼を受けさせて、モーセの律法を守るように命じるべきだ』と言った。」15:5
- パウロのかつての同僚たちだった！

• 議論が重ねられる

- 「そこで、使徒たちと長老たちは、この問題について協議するために集まった。議論を重ねた…」
15:6,7
- **神はこの大切な問題の解決を人間の知恵と判断に委ねられた！**

ペトロが自らの経験を語る

•ペトロの証言

- 「議論を重ねた後、ペトロが立って彼らに言った。『兄弟たち、ご存じのとおり、ずっと以前に、神はあなたがたの間でわたしをお選びになりました。それは、**異邦人が、わたしの口から福音の言葉を聞いて信じるようになるためです**。人の心をお見通しになる神は、わたしたちに与えてくださったように異邦人にも聖霊を与えて、彼らをも受け入れられたことを証明なさったのです。』15:7-8

•ローマの百人隊長コルネリウス家での出来事

- 「ペトロがこれらのことをなおも話し続けていると、御言葉を聞いている一同の上に聖霊が降った。」10:44

ペトロの主張

- 律法と言う軛を異邦人の負わせてはならない
 - 「また、彼らの心を信仰によって清め、わたしたちと彼らとの間に何の差別をもなさいませんでした。それなのに、なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負いきれなかった軛を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。」15:9-10
- 救いは行いではなくイエスの恵みによる！
 - 「わたしたちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです。」15:11

パウロとバルナバが証しする

• パウロとバルナバの証言

- 「すると全会衆は静かになり、バルナバとパウロが、自分たちを通して神が異邦人の間で行われた、あらゆるしるしと不思議な業について話すのを聞いていた。」15:12

• イエスの弟、長老ヤコブが口を開く

- 「二人が話を終わると、ヤコブが答えた。『兄弟たち、聞いてください。』15:13
- 「この人は大工の息子ではありませんか。彼の母親はマリヤで、彼の兄弟は、ヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではありませんか。」マタイ13:55、ガラテヤ1:19

ヤコブの主張

- ペトロが言った通り異邦人も救われる

- 「神が初めに心を配られ、異邦人の中から御自分の名を信じる民を選び出そうとなさった次第については、シメオン(ペトロ)が話してくれました。」15:14

- 預言者も語っている

- 『その後、わたしは戻って来て、倒れたダビデの幕屋を建て直す。その破壊された所を建て直して、元どおりにする。それは、人々のうちの残った者や、わたしの名で呼ばれる**異邦人**が皆、主を求めるようになるためだ。』15:16-18

- アモス9:11-13では「すべての国々」

ヤコブによるまとめ

- 異邦人に律法を守らせる必要はない！
 - 「それで、わたしはこう判断します。神に立ち帰る異邦人を悩ませてはなりません。」15:19
- しかし気を付けなければならないことがある
 - 「ただ、偶像に供えて汚れた肉と、みだらな行いと、絞め殺した動物の肉と、血とを避けるようにと、手紙を書くべきです。」15:20
 - 「偶像に供えて汚れた肉」: 地域によっては偶像に備えてから肉を販売していたく異教・偶像礼拝
 - 「みだらな行い」: 性的な不品行
 - 「絞め殺した動物の肉と、血」: 血は命そのものなので食べてはならない(レビ3:17他)

アンティオキア教会への報告

• 異邦人クリスチャンに対する正式文書

- 「使徒たちは、次の手紙を彼らに託した。『使徒と長老たちが兄弟として、アンティオキアとシリア州とキリキア州に住む、**異邦人の兄弟たちに**挨拶いたします。」15:23

• 決定事項

- 「**聖霊とわたしたちは**、次の必要な事柄以外、**一切あなたがたに重荷を負わせないことに決めました。**すなわち、偶像に献げられたものと、血と、絞め殺した動物の肉と、みだらな行いとを避けることです。以上を慎めばよいのです。健康を祈ります。」

15:28-29

エルサレム会議

- **異邦人は律法を守る必要はなくなった！**
 - 律法を守ることが救いの条件ではない
 - ユダヤ人が守るのは自由である
 - もし結論が違っていたら、私たちは今も律法を守らなければならなかったかもしれない
- **教会において意見が対立することはある**
 - それぞれの意見を出し合い議論する事
 - 神は人間の知恵と判断に委ねられている＞間違えることもある
- **「聖霊とわたしたちは」**
 - 聖霊を畏れつつ自らの決定に責任を持つ

異邦人宣教の道筋

- ① イエスによる約束
- ② ペンテコステの日の出来事
- ③ ペトロによるコルネリウス伝道
- ④ アンティオキア教会の誕生
- ⑤ 第一次宣教旅行
- ⑥ エルサレム会議

異邦人宣教の道筋

- ① イエスによる約束
- ② ペンテコステの降臨
- ③ ペトロによるコリントへの宣教
- ④ アンティオキアでの宣教
- ⑤ 第一次宣教旅行
- ⑥ エルサレム会議

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」1:8

異邦人宣教の道筋

- ① イエスによる約束
- ② ペンテコステの日の出来事
- ③ ペトロによるコルネリウスの家へ
- ④ アンティオキア教会
- ⑤ 第一次宣教旅行
- ⑥ エルサレム会議

「すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。」2:4

異邦人宣教の道筋

- ① イエスによる約束
- ② ペンテコステの日の出来事
- ③ ペトロによるコルネリウス伝道
- ④ アンティオキア教会の誕生
- ⑤ 第一次宣教旅行
- ⑥ エルサレム会議

「異邦人にも律法を守らせるべきかどうか」という重要な問題を、聖霊は周到かつ丁寧に解決された

聖霊は人の心(考え)を造りかえる